新しい時代の幕開けの中で、もっと住みやすいまちに！

南関町長
佐藤 安彦

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、ご家族お揃いで希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年は、全国各地において、梅雨時期の豪雨や局地的な集中豪雨、大阪、北海道で発生した地震などと大きな災害が発生し、南関町においても、梅雨の集中豪雨により300件を超える被害報告が出されるなど、災害が恒常化しているような状況にあります。

まずは、被災された方々へお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願うものであります。

そして、今後もいつどこで発生するか分からない災害等から町民の皆様方の安全・安心な暮らしを守るために、しっかりとした対策を図っていきたいと考えております。

さて、国においては、一億総活躍社会の実現に向けた地方創生の動きが続けられていますが、依然として、東京を中心とした都市部への一極集中も続いており、地方では、人口減少と少子高齢化が更に大きな問題となっています。

また、本年10月からは消費税が10％に増税される見通しであり、軽減税率制度はあるものの、地方の消費にはある程度の影響が出てくるものと思われます。

このような中で、町民の皆さんや地方自治体の生活に直接関係している年金や介護、医療、子育てなど社会保障の負担が大きくなってきており、安心して暮らせるような制度を実現してほしいと願うところであります。

本町においては、人口減少や少子高齢化に対応していくために、地方創生交付金や国県補助金を活用して、南関町に有効な事業を展開しています。

産業面では、「地方創生拠点整備交付金」を活用した「南関町加工品開発センター」が昨年3月に完成し、南関町の米や野菜、特産品などを活かした新しい加工品開発が進められており、今後は、ふるさと寄附金の返礼品や通販の品物として活用されるとともに、町内の商店でも広く販売されることを期待しております。

この事業にも関連性がある「ふるさとなんかん応援寄附金」は、平成29年度に初めて1億円の大台を突破しましたが、30年度は総務省の指導等もあり、寄附額は若干減少すると思われますが、町としても、「チームなんかん」として更なる事業推進を図りたいと考えております。

町内企業の工場新増設については、昨年は、2月にバンブーフロンティア㈱、バンブーマテリアル㈱ヤマチクの新設、5月には、㈱エイティー九州㈱との工場増設に伴う協定の調印をさせていただいたところであり、産業の振興と地元雇用を含めた町の活性化にも大きな役割を果たしていただくことになると考えております。

また、山の再生と孟宗竹等を活用したバンブーフロンティア事業については、既に竹の買い取りも始まっていますので、関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

このような企業の動きと全ての町民の皆様方のご尽力もあり、平成29年度の町税収入額が初めて12億円を超え、町としての過去最高額となりました。

今後もこれに満足することなく、安定した町税収入の確保に努めて参りたいと考えております。

「住んでよかったプロジェクト推進事業」は、平成28年度からは第2期事業として推進しておりますが、少しずつ効果が出始めており、減少を続けてきた小学生の児童数が昨年4月で増加傾向に変わりましたので、今後も更なる事業推進を図りたいと思います。

29年4月から本格運行を開始しました「予約型乗り合いタクシー事業」も好調でありまして、現在、約1，600人の方に登録いただき、地域公共交通の一助として1ヶ月に1，000人近い方にご利用いただいております。

西鉄庄山線の運行廃止等はありましたが、土曜日の運行や運行時間の延長や増便などと、更に利用しやすい運行体制を整えておりますので、安心してご利用いただきたいと思います。

町の大きな課題でもあります役場庁舎等の整備については、高校校舎を含む敷地等も熊本県より無償で譲渡いただき、現在は、新庁舎等の実施設計を発注しており、必要としない建物等の解体は既に完了しましたので、2020年9月の開庁に向けたスケジュールで全体事業を進めております。

また、町内外の皆様に長い間ご利用いただいた「南の関うから館」は、開館から20年が経過し、経年劣化による温泉設備不具合や利用者の減少等もあり、今後においても維持管理や修繕費に多額の経費を必要とすることから、現在の指定管理者との契約が終了する本年3月末をもって温泉施設は廃止することといたしました。これまでご利用いただいた皆様へ改めて感謝申し上げます。

今後、新庁舎建設と連携した施設の有効活用を図るとともに、コンパクトシティ構想を進めて参りたいと思います。

本年1月からは、いよいよNHKの大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」が放送されることになります。

金栗氏は、南関第3小学校の前身である玉名北高等小学校に駆け足登校で4年間通われ、後に「自分の基礎はこの駆け足登校によるもの」と語られており、「日本マラソンの父」として偉大な方であったことを、町を上げて伝えていかなければならないと考えています。

また、旧石井邸（北原白秋の生家）も昨年11月に国の文化審議会により文部科学相に答申された登録有形文化財に選ばれており、今後の整備と併せ、一般公開に向けた準備を進めていきたいと考えています。

本年も、もっと住みやすいまちを目指して、私自身、各事業でのトップセールスを含めて、全力で様々な事業展開を進めて参りますので、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、南関町の更なる発展と今年が皆様にとって良い年になることをご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

副町長　雪野 栄二
教育長　谷口 慶四郎

町の活性化を第一に考え「努力」する議会に

議会議長
酒見 喬

新年、明けましておめでとうございます。町民の皆様方におかれましては希望に満ちた輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、顧みますと昨年も自然災害の脅威のさらされた日本列島であったかのように思えます。豪雨、台風、地震など毎年のように繰り返され、その災害の増大さには言葉がありません。被害に遭われ犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、一日も早い復旧を願うばかりです。

南関町でも豪雨による災害など発生いたしましたが、幸いにも人災等もなく至って平穏な年であったかのように思えます。それも常日頃、町民の皆様方の精進のおかげであろうと思っております。

統合のため廃校となった南関高校をリニューアルし庁舎としての構想も計画段階から実施段階へと進み、関連施設の解体など工事は進んでおり、2020年9月の移転開庁を目指しているところです。

そのような中、町内外の皆様方に長きにわたり利用して頂きました。うから館の温泉部門を3月末日をもって閉鎖することになりました。温泉としてご利用いただきました多くの方々に御礼を申し上げますと共に、今後も町民の皆様方の憩いの場として、ご利用いただきますようご理解とお願いを申し上げるところでございます。

昨年3月に竣工した南関町加工品開発センターでは、指定管理者の一般社団法人南関ふるさと応援団による、一次産業の活性化や農産物などを活用し、新しい加工品の開発と商品化を目指し努力しておられ期待しているところです。

町の将来を担う子供たちの学校教育につきましては、正義感の強い豊かな心と、夢や希望を持ち能力を伸ばす教育がなされているものと信じています。

町の乗り合いタクシーの状況につきましては多くの方が利用され、予約者も増えております。今後も多くの方に利用して頂き福祉向上に繋がれば幸いです。

また今年は、日本人初の五輪選手、金栗四三先生を題材とした、NHKの大河ドラマ「いだてん」の放送が始まります。ゆかりの地、和水町、南関町、玉名市を舞台に、金栗少年の物語から始まり激動の時代にして、オリンピックという世界のスポーツ界で活躍され、日本マラソンの父として貢献されました。

金栗精神の代名詞となった「体力、気力、努力」その言葉をもとに、南関第三小学校の子供たちが「RUNNER～人生を変えた十二キロ～」の詩をつくり町内のM氏が曲を添えてCD化されました。その生涯を描いたテレビドラマが楽しみです。

南関町議会も昨年2月に議会議員の選挙があり、新しい顔ぶれと共に施策の検証も含め、町の活性化を第一に考えながら活動し、安心して住みやすい町の建設に「努力」していかねばならないと議員一同気を新たに致しております。

町民の皆様方の御理解、御協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

終わりになりましたが、町民の皆様方の益々の御活躍とご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして年頭のご挨拶とさせて頂きます。

南関町議会議員

副議長　境田 敏高
議員　西田 恵介
北原 浩一郎
中村 正雄
立山 比呂志
杉村 博明
井下 忠俊
立山 秀喜
打越 潤一
鶴地 仁
橋永 芳政